

表 5. Questionnaire on breast feeding among HIV (+) mothers

Question	1	2	3	4 (formula)	5 (breast)	6	7 (devis)
Case 1	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 2	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 3	Y	Y	Y	Y	N	Y	Y
Case 4	Y	Y	Y	Y	N	Y	Y
Case 5	N	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 6	N	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 7	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 8	Y	Y	Y	Y	N	Y	Y
Case 9	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 10	N	N	Y	N	Y	Y	Y
Total(1-10)	7Y	3Y	10Y	3Y	7Y	10Y	10Y

Question	1	2	3	4	5	6	7
Case 11	N	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 12	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 13	N	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 14	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 15	Y	Y	Y	Y	N	Y	Y
Case 16	Y	Y	Y	Y	N	Y	N
Case 17	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 18	Y	Y	Y	Y	N	Y	Y
Case 19	Y	N	Y	N	Y	Y	Y
Case 20	Y	Y	Y	Y	N	Y	Y
Total(11-20)	8Y	4Y	10Y	4Y	6Y	10Y	9Y

Y: Yes, N: No

Questions: This questionnaire is for HIV positive mother.

- Medicine means anti-HIV drugs.



Fig 3 Direct heating of breast milk in a pan over a stove, and temperature was monitored by a thermometer.

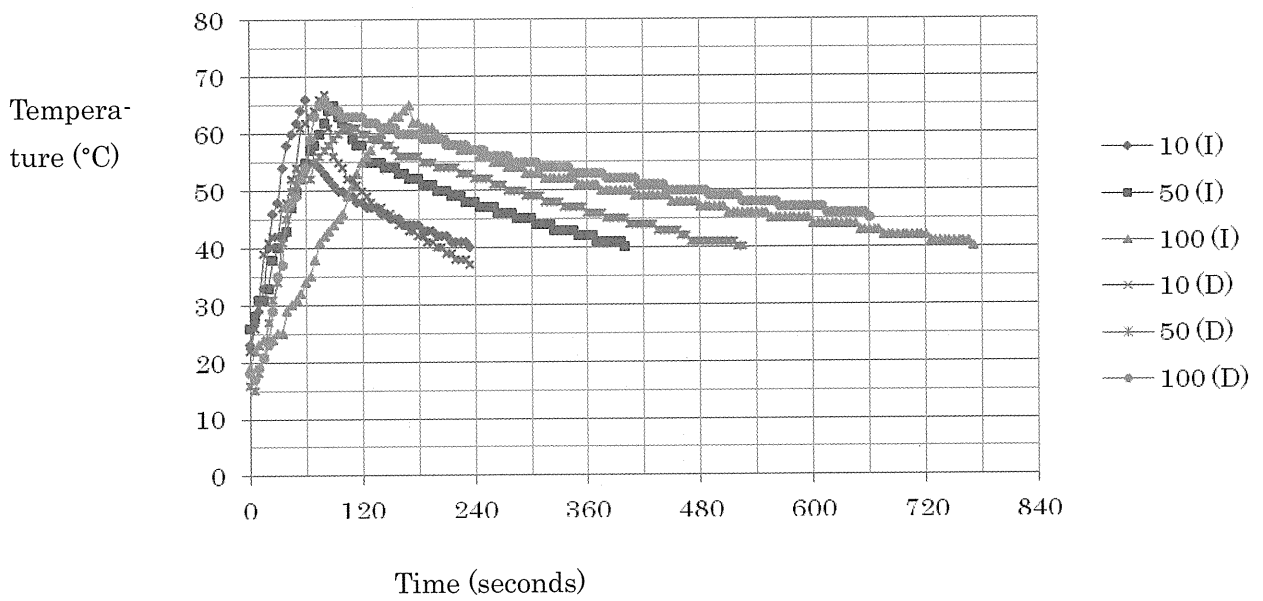


Fig. 4 Time Vs Temperature Curve of directly (D) and indirectly (I) heated milks

#### 4. 中国雲南省、ベトナム、ラオスにおける HIV 母子感染症への取り組み

##### 中国雲南省の HIV 母子感染症予防の取り組み

###### A. 研究目的

依然として HIV/AIDS の流行は中国で大きな問題である。中国では 2010 年 10 月まで累積 HIV/AIDS 患者数は 37 万人に及ぶ。発病者は 13 万人、6.8 万人の死亡者がある (2009 年)。年 5 万人位の新しい患者が見られる。異性間の性感染 42%、男性同士の性感染 33%、麻薬等 24%、母子感染 1% である。感染者が多い地域として、雲南、河南、広西、新疆、広東、四川の 6 省区が報告されており、全体の約 8 割を占めている。1989 年中国では雲南省において第 1 番目の HIV 患者が見られた、2010 年では雲南省に 8 万人の累積 HIV/AIDS 患者がおり、すでに 1 万人が亡くなっている。夫婦間の感染が 20% に及んでいる。また感染者の多い地域では、経済、文化が反映している。妊婦の感染が 4% に及んでいる。雲南省では 2005 年我々によって HIV 母子感染の予防対策の施行がされた。実行可能で受け入れやすい母子感染予防の支援型研究を雲南省の郊外で行ったので報告する。

###### B. 研究方法

中国の国家によるエイズ予防政策を受けて 2005 年から雲南省の地方に出向き、積極的に HIV の予防計画を推進した。予防教育、治療薬の使用、検査の普及、感染者への支援などを行った。

###### C. 結果

支援型の介入において HIV の母子感染は減少した。特に雲南省で HIV の母子感染の多い地区は 5.9%、一番少ない地区は 1.3% を示し、平均は 3.6% であった。妊婦の HIV 検査受診率は 2008 年の 80% から 2010 年の 94% に増加した。また感染妊婦の服薬率は 84% から 91% に増加している。多くが HAART 治療法を行っている。人工乳

を与えている。

###### D. 考察

HIV 感染者は増えているが、その増加は鈍くなっている。性感染症が多く雲南省が妊婦の感染では国内最高である。我々の支援型の母子感染対策は著しく母子感染を減らした。

##### ベトナムでの HIV 母子感染の取り組み

###### A. 疫学

2010 年のベトナムの人口は 8700 万人であり、PLWH (People living with HIV/AIDS) は 18 万人で 44,000 人の AIDS 患者を含んでいる。すでに 5 万人が死亡している。HIV 患者の半数は麻薬使用者である。2010 年において妊婦の 0.26% が HIV 感染者 (地域によって異なりホーチミン市は 0.8%) で、その割合は 2002 年から横ばいである。小児の HIV 患者は、新しい患者の増加は少なくなったものの累積患者は 5,000 人とピークを示している。

###### B. 政策と現状

これらの HIV 患者に対して、国、地方、地区の保健活動がなされている。PMTCT 戦略としては妊娠可能な女性の HIV 感染防止、HIV 感染女性の妊娠・母子感染の予防があり、HIV 感染者のいる家族への支援体制が望まれる。国の戦略として、妊婦の HIV 感染率を 0.5% 以下にする。HIV の MTCT を 10% 以下にする、全ての母子に治療を施す、90% 以上が何らかの支援と経過観察がなされる、60% 以上の妊婦が HIV 検査を受ける、がある。これは戦略であって、現時点でうまく行われていない地方、地区がある。即ち 2010 年にベトナム全土では約半数の妊婦が HIV 検査を受けている。妊婦の 0.26% が HIV 陽性で、その 95% が治療を受けている。

###### C. 今後の課題

2015 年に向けてさらにこの戦略を進める、全

土で HIV の母子感染を 5%以下にする。そのために妊娠可能な年齢の女性への教育、保健センターへのアクセスの向上、従来の生活習慣の改善を行う。保健従事スタッフへの教育、治療薬の服用の充実、産後のフォローアップサービスを行う。

## ラオスでの HIV 母子感染の取り組み

### A. 疫学

ラオスでは約 4000 人の HIV 患者、2500 人のエイズ患者、1000 人の HIV による死亡が知られている。多くはビエンチャンやサワンケートの都市に見られ、異性間感染が多い。小児の感染は 0.5%である。

### B. 政策と現状

現時点においては (1) 15%の妊婦が HIV のカンセリングを受けている。(2) 15%の母子感染が見られる。(3) 1 歳までに 2%が HIV の検査を受けている。(4) 2008 年では殆どの HIV 陽性妊婦は治療を受けていない状況であった。このような状況はアジアの国においてはパキスタン、インドネシア、バングラデシュに相当する悪い状況である。限られてはいるが一部の地区においては海外からの支援等で HIV 予防・治療が進

んでいる。

### C. 今後の課題

ラオスにおける 2015 年までの目標は (1) 70%以上の妊婦が HIV の検査とカンセリングを受ける。(2) HIV 陽性妊婦の 90%以上が治療を受ける。(3) 陽性妊婦からの乳児は全て治療を受ける。カウンセリング、検査、感染者のケア、服薬、児の栄養改善、保健従事者の教育等々行うべきことが山積している。HIV、AIDS 患者はこのままでは増加の傾向にあり、WHO 等の支援なども受けながらにいか食い止めるかが鍵となる。

### E. 全体の結論

中国雲南省、ベトナム、ラオスにおいて HIV 母子感染の現状ならびに対策について調査した。雲南省においては母子感染が多いことから対策（検査、治療、カウンセリング）が進んでいるが、ベトナム、ラオスの順に対策の遅れが見られ、一層の支援が必要である。

(謝辞 ベトナムの情報を戴いた Nguyen Hien Thanh, ラオスの情報を戴いた Phengxay Manilay 氏に深謝します。)

## 研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
蓮尾泰之・明城光三・和田裕一 吉野直人・林 公一・喜多恒和 塚原優己・外川正生・稲葉憲之	Human immunodeficiency virus (HIV)陽性妊婦への医 療側の対応 —HIV母子感染予防における HIV拠点病院の現状—	医療	66-2	49-54	2012
Keiichi Fujiwara, Eriko Aotani, Tetsutaro Hamano, Shoji Nagao, Hiroyuki Yoshikawa, Toru Sugiyama, Junzo Kigawa, Daisuke Aoki, Noriyuki Katsumata, Masahiro Takeuchi, Mitsuaki Suzuki	A Randomized Phase II/ III Trial of 3 Weekly Intraperitoneal versus Intravenous Carboplatin in Combination with Intravenous Weekly Dose-dense Paclitaxel for Newly Diagnosed Ovarian, Fallopian Tube and Primary Peritoneal Cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology			2010
Yamamoto Sohei, Kasajima Atsuko, Takano Masashi, Yaegashi Nobuo, Fujiwara Hiroyuki, Kuzuya Kazuo, Kigawa Junzo, Tsuda Hiroshi, Kurachi Hirohisa, Kikuchi Yoshihiro, Sugiyama Toru, Tsuda Hitoshi, Moriya Takuya	Validation of the Histologic Grading for Ovarian Clear Cell Adenocarcinoma: A Retrospective Multi- institutional Study by the Japan Clear Cell Carcinoma Study Group	International Journal of Gynecological Pathology	30	129-138	2011
Yamamoto Sohei, Tsuda Hitoshi, Shimazaki Hideyuki, Takano Masashi, Yoshikawa Tomoyuki, Kuzuya Kazuo, Tsuda Hiroshi, Kurachi Hirohisa, Kigawa Junzo, Kikuchi Yoshihiro, Sugiyama Toru, Matsubara Osamu.	Clear Cell Adenocarcinoma With a Component of Poorly Differentiated Histology: A Poor Prognostic Subgroup of Ovarian Clear Cell Adenocarcinoma	International Journal of Gynecological Pathology	30	431-441	2011
熊谷晴介・庄子忠宏	4. 卵巣がん 4-B. 上皮性・間質性腫瘍 (卵管・腹膜がんを含む)	婦人科がん 化学療法ハンド ブック		107-119	2011
熊谷晴介・杉山 徹	わが国における国際共同臨 床試験（企業治験および研 究者主導試験）の現状と問 題点	腫瘍内科	7-3	275-280	2011
熊谷晴介・杉山 徹	c) ベバシズマブを用いた レジメン	臨床腫瘍プラク ティス	7-2	148-154	2011
熊谷晴介	4) 併用化学療法適用の立 場に立って	日産婦誌	63-12	135-139	2011

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
庄子忠宏・高取恵理子・杉山 徹	子宮頸癌の化学療法と支持療法	産婦人科治療	102-6	975-983	2011
小見英夫・苦米地英俊・杉山 徹	卵巣癌バイオマーカー	成人病と生活習慣病	41-9	1069-1072	2011
外川正生	小児HIV脳症	小児科臨床ピクシス	28	156-157 224-225	2011
外川正生	小児慢性疾患のサポート感染症	小児科臨床ピクシス	26	71-75 210-211	2011
外川正生	小児、青少年期における抗HIV療法	Guideline 抗HIV治療ガイドライン		114-127	2011
稲葉憲之	子宮頸がんは予防できる！ —HPVワクチンの基礎から実践へ—	山口県医学会誌	45	95-100	2011
渡辺 博	【産道感染・母乳感染への対策】HIV	臨婦産	65-8	1058-1061	2011
稲葉憲之・大島教子・林田志峯 稲葉未知世	B型肝炎ウイルス, C型肝炎ウイルス	産婦人科の実際	60-3	389-396	2011
西川正能・大島教子・林田綾子 林田志峯・石川和明・岡嶋祐子 北澤正文・深澤一雄・渡辺 博・ 高見澤裕吉・稲葉未知世	周産期領域におけるG型肝炎ウイルスお臨床的意義—同じフラビウイルス科に属するC型肝炎ウイルスと比較して—	獨協医学会	38-1	49-57	2011
香坂信明・岡崎隆行・稲葉未知世 稲葉不知之・亀森 哲・坂本尚徳 北澤正文・渡辺 博・深澤一雄 稲葉憲之	HPV感染状況と子宮頸癌健診における細胞診とHPV検査併用の意義	獨協医学会	38-1	59-64	2011
喜多恒和・外川正生・塚原優己・ 和田裕一	HIVの母子感染とHIV陽性妊婦の管理	母子感染		290-298	2011
中西美紗緒・箕浦茂樹	HIV/AIDS	周産期医学	41	143-145	2011
和田裕一・喜多恒和	ヒト免疫不全ウイルス(HIV)	周産期医学	41-2	211-216	2011
中西美紗緒・水主川純 定月みゆき・箕浦茂樹	当院におけるHIV感染妊婦37例の臨床的背景と周産期予後の後方視的検討	日本周産期・新生児医学会雑誌	47-1	73-77	2011
中西美紗緒・田沼順子 本田美和子・五味淵秀人 菊池 嘉・岡 慎一・箕輪茂樹	当院におけるHIV母子感染予防対策を逸脱した症例の問題点と今後の課題	The Journal of AIDS Research	13-1	26-31	2011
水主川純・箕浦茂樹	すべての救急医療従事者必須の未受診妊婦への対応	EMERGENCY CARE	24-1	60-64	2011

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
喜多恒和	HIV感染妊婦の最新情報	日産婦医会報	63-2	10-11	2011
塚原優己・阿部真理子 喜多恒和・高田知恵子 佐久本薫・大金美和・外川正生 吉野直人・稲葉憲之・和田裕一	女性のセクシャルヘルスと HIV感染 Medikcal and Social Consideration of HIV/AIDS as Women's Health Care	日本エイズ学会誌	13-3	120-124	2011
浅野 真・宮澤 豊	HIV感染	産婦人科の実際	60-11	1633- 1637	2011
Seisuke Kumagai, Toru Sugiyama, Tadahiro Shoji, Hirofumi Michimae, Noriyuki Katsumata, Daisuke Aoki, Fumitoshi Terauchi, Toshiko Jobo, Kazunori Ochiai, Makoto Yasuda	Does Severe Anemia Caused by Dose-Dense Paclitaxel- Carboplatin Combination Therapy Have an Effect on the Survival of Patients With Epithelial Ovarian Cancer? Retrospective Analysis of the Japanese Gynecologic Oncology Group 3016 Trial.	International Journal of Gynecological Cancer	21-9	1585- 1591	2011

